

2017 なつやすみ★おススメ本

夏によむよむ

たのしいこといっぱい。どしゃかんへいこう!

東近江市立図書館

八日市 (0748-24-1515)
 能登川 (0748-42-7007)
 五個荘 (0748-48-2030)
 永源寺 (0748-27-8050)
 蒲生 (0748-55-5701)
 湖東 (0749-45-2300)
 愛東 (0749-46-2266)

5 年 6 年



『香菜となつこの秘密』

福田隆浩/作 講談社

転校生の広瀬くんは、自己紹介のとき「おれ、友だちとかつくる気ないんで、適当に無視してかまわないから」と言った。それ本心なの？なぜ、そんなこと言うの？話すことは苦手だけど聞き上手な香菜が調べていくと……。



『ぼくのなかのほんとう』

パトリシア・マクラ克蘭/作 若林千鶴/訳 リーブル

父さんと母さんは忙しい音楽家。夏休み、ぼくは犬のエリーといっしょに、おばあちゃんのマッディのうちに過ごすことになった。マッディは森の動物たちと友だちだっていうんだけど、ほんとうかな……。

『お金さえあればいい？』
 大人は知らない・子どもは知りたい！
 濱矩子/作 クレヨンハウス



お金は大切。それは君も知っているよね。でも、どうして大切なんだろう？ お金は何のためにあるの？ 「経済」は大人だけの話じゃないんだ。お金のなぞを知れば、君も「経済名探偵」になれるぞ。



『フィボナッチ
 自然の中にかくれた
 数を見つけた人』

ジョセフ・ダグニーズ/作
 ジョン・オブライエン/絵
 渋谷弘子/訳 さえら書房



0、1、1、2、3、5、8、13、21、34、55、89、144……。これは800年以上前に、フィボナッチさんが、ウサギや花びらを数えるなかで見つけた数字です。どんな順番で並んでいるのかわかりますか？

『それでも、海へ
 陸前高田に生きる』

安田菜津紀/作 ポプラ社



孫の言葉に背中をおされて、菅野さんは再び漁に出まわります。陸前高田の町と人の命をうばった海とともに生き、生活を取りもどすために。震災をこえ、地域の仲間と前を向いて生きていくおじいちゃんの記録です。



『もとこども』
 富安陽子/作
 いとうひろし/絵
 ポプラ社

おじいちゃんもママも、電車でいっしょになったあの人も、大人はみんな〈もとこども〉。世の中は、〈こども〉と〈もとこども〉でできているんだね。今、こどものわたしは、これからどんなことをしようかなあ。



5

年

6

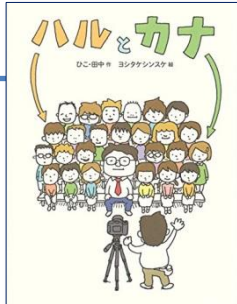
年



『落語少年サダキチ』

田中啓文 / 作 福音館書店

ただし忠志は勉強も運動も苦手、ケンカも超弱く女子にもモテない。そんなイケてない彼がお楽しみ会でひろうしたのは……落語!? 偶然、道ばたで助けたよっぱらいのじいさんから教わった落語を武器に、時代も超えて大活躍!



『ハルとカナ』

ひこ・田中 / 作 講談社

相手のことを急に知りたくなったり、逆に自分のことを知ってほしくなったり……これって好きになったのかな? ハルとカナは今、おたがいのことがとっても気になるみたいです。

『大久野島からのバトン』

おおくのじま
いまぜきのぶこ
今関信子 / 作 新日本出版社

700羽以上のうさぎが生息し、うさぎ島とも呼ばれる大久野島には、戦時中、毒ガスを作る工場がありました。

クラブ活動で島を訪れた香織と清海は、毒ガス資料館の元館長と出会い、彼から島の辛い歴史を聞くのでした。



『戦火の三匹 ロンドン大脱出』

ミーガン・リクス / 作
おたかおる
尾高 薫 / 訳
徳間書店

1939年、戦争が始まった。ロンドンに住む犬のバスターとローズ、猫のタイガーの飼い主の兄妹は、戦火から逃れるために遠いおばあちゃんの家へ行ってしまふ。残された三匹には恐ろしい運命が……。

はゆまのすず
『駅鈴』
くぼたかおり
久保田香里 / 作
くもん出版

奈良時代、駅鈴を鳴らし、馬で駆け、重大な知らせを伝える人たちがいました。近江国(今の滋賀県)の駅家を舞台に、女の子でありながら、祖父や父のような駅子にあこがれる、小里の成長ものがたり。

『王様に恋した魔女』

こい
かしわばさちこ
柏葉幸子 / 作 講談社

戦いが続いた時代、国王たちは戦争に勝つため魔女を味方にしようとし、従わない者はつかまえて火あぶりにした。魔女には苦難の時代だったが、それでも彼女たちは身を隠し、大切なものを守り生きていた。

なが~い夏休み、今年はどうなふうに過ごす? いっぱい遊んでたくさん勉強してびっくりするくらい本を読んで……? 楽しく元気な夏になりますように!

